

無痛分娩について

当院ではできるだけ自然なお産を目指しています。しかし、無痛分娩で出産した方が良いとお考えの方も一部におられると思います。例えば、痛みに弱くて陣痛に対して精神的に不安になる方やパニックになる方は、スムーズなお産ができずに母子供に危険な状態になる事もあります。そのような方にとって、無痛分娩を出産の選択肢としてご検討いただければと思います。

無痛分娩での出産に至るまでの経過について

当院では無痛分娩は硬膜外麻酔を行い計画的に行います。(陣痛がおこる前に入院していただき麻酔の準備をした上で、陣痛促進を行います)

当院では陣痛促進に先立って、前日より入院していただき、子宮の出口をやわらかく広げるための処置を行います。陣痛が強くなってからでは辛いので、入院後事前に麻酔を入れる為のカテーテルというチューブを背中に入れます。そのカテーテルを入れる前に、少しの皮膚麻酔の注射を背中に打ちます。

そうする事で、カテーテルを入れる痛みがなくなります。

入院翌日に、点滴からお薬をいれて陣痛促進を行います。以前は、麻酔薬は陣痛が有効になりはじめて子宮口が4～5cm開くのを待ってから開始していました。このためにその間の陣痛を頑張って乗り越えていただく必要がありました。しかし、現在は陣痛促進とほぼ同時に麻酔薬を開始することを一般的には行っています。これにより、子宮口が全開するまでの辛い時間をコントロールすることが可能です。

赤ちゃんの様子やお産の進み具合を見て、麻酔薬を注入していきます。

初めは微量の麻酔液の注入から開始しますので、ある程度陣痛の痛みはこの段階ではまだあります。その方が、自分自身をコントロールしやすいので、食事をしたりトイレに行ったりしやすいからです。麻酔の量が増えてくると、足がしびれて動けなくなったりする場合がございます。

しかし、子宮口が開ききっていない時でもかなりの強い陣痛が付いてくる方も多いので、その場合は呼吸法等で乗り切りましょう。痛みの様子を見ながら、お薬を追加していきます。

麻酔薬の追加は、自己調節が可能です。ご自分で追加ボタンを押して痛みをコントロールすることが出来ます。

会陰部の近くに麻酔が効くようにお薬を追加する事で、筋肉の緊張も柔らかくなり、会陰部の伸びも良くなって赤ちゃんの頭が会陰部から出る時の痛みが無くなります。会陰切開をする時も麻酔が効いているので、その痛みはありません。

麻酔の量が増えてくると足がしびれて動きにくくなったり、陣痛が分かりにくくなったりすることがありますので、ご自分の力だけではお産ができなくなることがあります。この場合には、吸引分娩をするなどお手伝いさせていただく場合がございます。

最近はお産をするためにいかに陣痛が必要か、また吸引分娩を減らすために出産間近の陣痛やいきみ感が必要であることを皆様にご理解いただくようご説明させていただいております。これにより吸引分娩率も減少してきています。

お産が終わりましたら、背中中のチューブを抜きます。その後、麻酔の効き具合やお産後の経過を見ながら歩行や食事などをしていただきます。

無痛分娩の費用について

無痛分娩は保険の適用にはなりませんので、7万円程度の自己負担が必要です。その他、子宮口を広げる準備や陣痛促進に約3万円、吸引分娩などを行った場合には別途費用が必要です。

無痛分娩同意書・申込書

- 1、硬膜外麻酔を行うことにより血圧が低下したり、まれではありますが**麻酔の薬剤でアレルギーを起こしてショック状態になる場合や、注射自体から感染や出血、神経損傷を起こす危険性があります。**
2. 陣痛促進剤を使用しますが、別紙によりご了解をいただきたいと思います。
3. 麻酔は、すべての痛みを完全になくすものではございません。辛い陣痛や下腹部痛、腰痛などを和らげることを目的としている事をご理解ください。
4. 計画的無痛分娩に先立って、自然陣痛が始まった場合には、状況によっては無痛処置を行うことが困難な場合がございますのでご了承ください。

また脊椎の変形や狭窄などのため、硬膜外麻酔ができない場合もございますのでご了承ください。その他、硬膜外麻酔の効果が十分でない場合には静脈麻酔による鎮痛を試みる場合がございますが、母児への影響にも十分に注意をはらって使用させていただきますのでご了承ください。

5. 出産費用に加え、自費による自己負担が必要であることをご了承ください。

私はこのたび、担当医師により無痛分娩についての説明を十分にうけ、偶発症などについても理解しましたので、無痛分娩を希望し申し込みいたします。

平成 年 月 日

患者氏名 _____ 印

保護者または保証人 _____ 印

住所 _____

患者との続柄 _____